

しあわせのペンリレー No. 10

～ 尾鷲の宝が次代に引き継がれているのであれば… ～

私は尾鷲で生まれて、尾鷲で育ち、物心がついた頃には、身近に「ヤーヤ祭り※1」があり、「尾鷲節※2」がありました。このような私が、40歳にして、「ちゃんと太鼓もたたき、篠笛（しのぶえ）も吹けるようになりたい」と思い、太鼓と篠笛の稽古に取り組み始めました。

私が、太鼓と篠笛の稽古に取り組み始めると、「子どもに太鼓を教えてやってほしい」という依頼が届くようになりました。「下手くそな俺に教えられるわけがない」と断っていたのですが、断り切れなくなり、太鼓仲間と週に1回太鼓教室を開くようになりました。

太鼓教室を始めたら、次に尾鷲小学校から「学校の授業として『尾鷲節』の太鼓に取り組みたいので、指導して頂けませんか」という依頼が舞い込んできました。「学校の授業として指導なんて…。とてもじゃないが…」と思ったのですが、これも断り切れずに、太鼓仲間と引き受けすることになりました。

太鼓教室、学校での太鼓指導を始めて、22年が経ちました。地域の方からは「地元の伝統芸能を次代に引き継いで、立派ですね」といった言葉を頂きますが、私には、そんな大それた思いはありません。「『尾鷲節』好きが、子どもたちと一緒に楽しんでいる」という思いで22年間続けてきました。その結果として、もしも「尾鷲節」という尾鷲の宝が次代に引き継がれているのであれば、嬉しいことだと思います。

これからも、続けられる限り、子どもたちと一緒に「尾鷲節」を楽しんでいきたいと思っています。

い組 子ども太鼓 代表
小倉 清志

※1 尾鷲ヤーヤ祭り

2月上旬に尾鷲神社の例祭で「やあ、やあ。我こそは…」ではじまる戦国武将の名乗りに由来する。夜はたくさんの提灯が点る中、白装束を纏った男衆が、「チョウサジヤ！ チョウサジヤ！」の掛け声とともに勇ましくぶつかり合い、旧町18町から集まった男衆による熱気であるかかる練りのある祭りである。

尾鷲市観光物産協会より

※2 尾鷲節

「尾鷲節」は大変古くから歌い継がれている民謡である。言い伝えによると、1615年の「大坂夏の陣」の戦いで、豊臣側について敗れた真田一族が、涙ながらに紀州路「尾鷲」に落ち延び、その悲しい思いを「なしょままならぬ、なしょままならぬ、なしょになる身をもたせてや」と歌ったのが始まりと言われている。

尾鷲市ホームページより